本との出会いを楽しむ 第20回

リズムにあわせて本を読む

保健管理センター准教授　田名場　美雪

長くつ下のピッピ、ナルニア国物語、赤毛のアン、エルマー、怪盗ルパン、シャロームホームズ、明智小五郎。小学生の頃、夢中になってシリーズものを読み漁りました。そのスピードたるや、市立図書館の司書さんを驚かせるほどでした。

本当の意味で本を読むことができるようになったのは、弘前大学の教員になってからです。それまでの私は、速読、斜め読み。ページを進めることに専念しすぎて、味わうことを怠けていたようです。

味わい方を教えてくれたのは、作家・いしいしんじです。出会いは『ぶらんこ乗り』。とても面白くて早くページを進めたかったのですが、そうさせてもらえませんでした。日本語そのものが魅力的であること、静かな緊張感が漂っていること、いくつもの小品が埋め込まれていることもあって、ゆっくり読んでみようという気持ちになったのです。『麦ふみクーツェ』『プラネタリウムのふたご』『ポーのはなし』などの長編作品も良いのですが、短編の物語も格別です。例えば『雪屋のロッスさん』。「あなたはなにをするひとですか？」と本の帯にはあります。果物屋、調律師、プロバスケット選手、大泥棒、棺桶セールスマン、雨乞い、さまざまな仕事を営む人たちが登場し、切なくさせたりじんわりさせてくれます。いしいしんじの美しく静かなリズムをもった日本語は、急ぎ足の私に文章と一緒にゆっくりゆっくり歩くことを教えてくれました。

別の読み方を教えてくれた作家もいます。伊坂幸太郎です。ミステリー作家と決めつけ、それまで敬遠していた私が何気なく手にしたのが『砂漠』でした。春・夏・秋・冬・春という５章構成。「四月、大学生活がはじまる」という書き出しで春の章が始まり、「講堂で行われた卒業式はあっという間に終わった」と春の章で終わります。登場人物は大学生５名。語り手でもある冷静な北村君、大学時代を徹底して楽しもうというブルジョアの鳥井君、無表情美女の東堂さん、春の日だまりのようでいて超能力者でもある南さん、自信家・努力家で圧倒的存在感を示す西嶋君。合コン、海水浴、バイト、休講、麻雀、大学祭といった楽しげなエピソードだけではありません。二年生の夏に犯罪集団に巻き込まれ、鳥井君は片腕を失います。読み返すたび、西嶋君に惹きつけられます。「格好悪いけど、堂々としているんだ（鳥井君）」「どんなことにも真剣勝負なんだよ、たぶん。言い訳しないで、逃げずに、克服しようとする（東堂さん）」、これが理由です。速いストーリー展開、軽妙な語り口。小気味いいリズムに乗りながら、文章と一緒にジョギングするように読んでいきます。

文章のリズムにあわせながらゆっくり歩いたりジョギングしたり。本は私に読み方も教えてくれました。生協の書籍コーナーで本を手にしている学生さんを見かけると、嬉しくなります。よい出会いがありますように。

（たなば　みゆき）

弘前大学附属図書館で所蔵している関連図書

☆**いしいしんじ**　『それでも三月は、また』という図書に、短編「ルル」が収載されています。本館と分館で各1冊所蔵。請求記号　918.6||So55

☆**伊坂幸太郎**　本館で『重力ピエロ』を所蔵。図書ID　08367682　請求記号913.6||I68j

☆**江戸川乱歩**　本館で『江戸川乱歩全集』全25巻を所蔵しており、『少年探偵団』は23巻。その他、岩波文庫でも『江戸川乱歩短編集』など5冊を所蔵。